

「新温泉町人口ビジョン」・「新温泉町地方創生総合戦略」の概要

新温泉町では、人口減少の克服、地域経済の発展や活力ある地域社会の形成など、本町の地域課題の総合的解決と魅力あふれる地方創生を実現するため、平成 27 年 10 月に「新温泉町人口ビジョン」及び「新温泉町地方創生総合戦略」を策定しました。

項目	新温泉町人口ビジョン	新温泉町地方創生総合戦略
策定内容	今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す	人口、経済、地域社会の課題など、本町の地域課題の総合的解決と魅力あふれる地方創生を実現するための実行計画
対象期間	平成 72(2060)年まで	平成 27(2015)～31(2019)年度

新温泉町人口ビジョン

1 人口等の推移と現状から見た将来の予測 (国立社会保障・人口問題研究所準拠の推計予測)

●総人口の推移と予測

- ◎過去の推移：昭和 25(1950)年から減少が続く
- ◎将来の予測：今後も減少が継続する

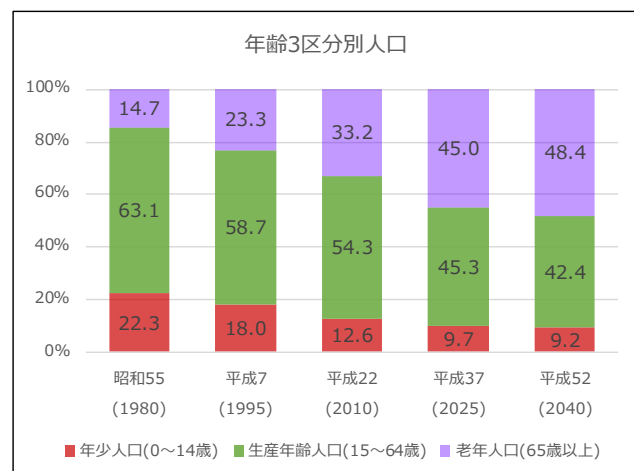
昭和 25(1950)年：29,788 人

↓
平成 22(2010)年：16,004 人

↓
平成 52(2040)年：9,193 人

●年齢 3 区分別人口の動向予測

- ◎平成 7(1995)年
老年人口 > 年少人口
↓
- ◎平成 37(2025)年
老年人口 ≒ 生産年齢人口
↓
- ◎平成 52(2040)年
老年人口が総人口の約半数
(生産年齢人口 1 人で約 1.1 人の老年人口を支える)



●出生・死亡数の推移 (自然増減)

- ◎出生数：減少傾向 (H16：131 人→H26：85 人)
- ◎死亡数：概ね横ばいで推移 (毎年 200 人超)
- ◎15～49 歳の女性人口が減少
- ◎35 歳以上の男女の未婚率が上昇<晩婚化>

◎出生数はさらに低下し、15～49 歳の女性人口も減少

●転入・転出数の推移 (社会増減)

- ◎転入・転出数：転入数を転出数が上回る社会減の状態 (この5年間 (H22～H26) では、毎年約 100～150 人の社会減)
- ◎10 代後半での進学や就職等に伴う町外への転出が顕著
- ◎20 代前半での大学等卒業後の就職に伴う転入が減少
- ◎20 代後半～30 代の子育て世代の転出が増加
- ◎転出先、通勤・通学先は、鳥取市が多い

2 目指すべき将来の方向

- ① 転入・転出数の均衡（移動ゼロ） → 人口減少の歯止めを目指す
- ② 出生数の増加による自然増 → 人口構造を変えることを目指す

※移動ゼロ：転入・転出数が同数となり、移動人口がゼロとなる状態

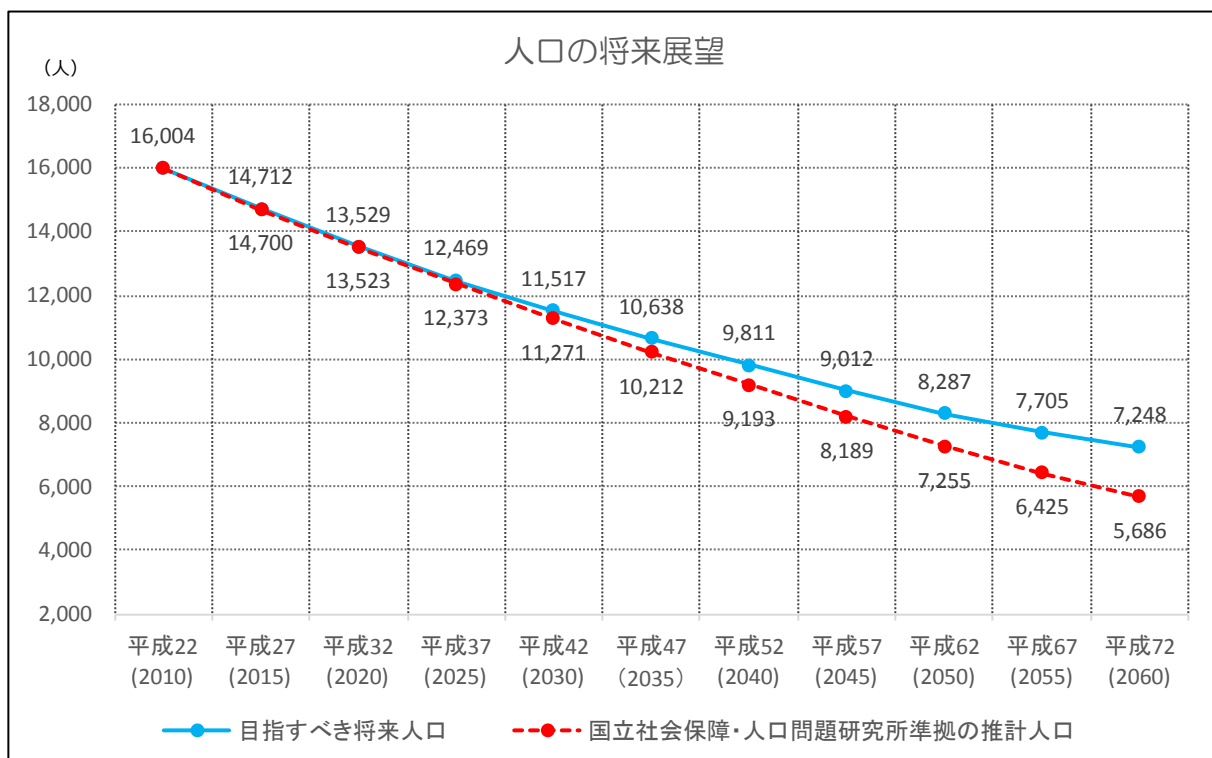
そのために、若い世代の希望をかなえる雇用・就労環境の確保や結婚・出産・子育て環境の充実などに取り組み、「ずっと住み続けたい、訪れてみたい」と思える魅力と元気のあるまちづくりを進める。

3 人口の将来展望

目標年次	人口の将来展望		
	人口	合計特殊出生率	転入・転出差
平成 22(2010)年	16,004 人	1.76	△163 人 (転入数－転出数)
短期的目標 平成 32(2020)年	13,600 人	1.82	縮小
中期的目標 平成 52(2040)年	9,900 人	2.07	縮小
長期的目標 平成 72(2060)年	7,300 人	2.07	均衡（移動ゼロ）

◎転入・転出数の均衡（移動ゼロ）は、平成 62(2050)年での均衡を目指す。

※合計特殊出生率：15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に何人の子どもを生むかを表した数値



新温泉町地方創生総合戦略

1 総合戦略の基本的な考え方

●人口減少の大きな要因

- ◎若者の10代後半での進学や就職等に伴う町外への転出が顕著
- ◎大学等卒業後の就職に伴う20代前半での転入が減少

●高校生アンケートの結果

- ◎進学・就職等で新温泉町を離れても、将来は故郷にUターンしたいと思う生徒の割合は38.7%あり、新温泉町は若者にとって住みやすく愛着のあるまちだと考えられる〔Uターンしたくない(11.7%)、わからない(48.3%)〕

- ◎Uターンを考える就職や結婚の時期には、町内に希望する仕事がない等の理由により、Uターンをあきらめている人が多いことがうかがえる

●基本的な考え方

- ◎多くの若者のUターンしたいというその思いに十分に答えることができる雇用や子育てなどの環境づくり
- ◎Uターンしたいと思われるふるさとの魅力づくり
- ◎ずっと新温泉町で暮らす人(定住者)、これから新温泉町で暮らしてみたいと思う人(移住者)にとっても、まちにはいつも賑わいがあり、人と人とのつながりを実感することができる夢とぬくもりにあふれたまちづくり

●取組の内容

◎しごとの創生

- ・若い世代の希望をかなえる雇用・就労環境の確保
- ・地域ブランドの強化による地域産業の活性化
- ・観光・交流によるまちの賑わいの創出

◎ひとの創生

- ・出会いの場づくりや子育ての不安を和らげる結婚・出産・子育て環境の充実
- ・定住環境の整備による子育て世代、若者を中心とした移住・定住の促進

◎まちの創生

- ・安全・安心で快適な暮らしを支えるまちづくり

●取組の進め方

- ◎本町の特性を生かして、時代の流れに応じた施策に取り組む
- ◎山陰海岸ジオパークや日本有数の温度や量を誇る温泉(湯村温泉、七釜温泉、浜坂温泉)など、貴重な自然遺産を再確認しながら、松葉ガニやホタルイカなどの海の幸、但馬牛などの山の幸のほか、歴史、文化、先人などの多種多様な地域資源をさらに磨きあげながら、最大限に活用する

2 総合戦略の基本目標と具体的な施策

基本目標 1 まちを支える産業の振興

施策の基本的方向	具体的な施策
新たな事業や雇用の創出	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業・創業支援の強化 ■ 町内企業の成長支援と新規産業の創出 ■ 雇用・就労支援の強化 <p style="text-align: right;">など</p>
地域産業の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業振興の体制強化 ■ 商工業・農林畜水産業の振興 ■ 地域ブランドの深化

基本目標 2 まちでもてなす交流の拡大

施策の基本的方向	具体的な施策
観光産業の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観光情報の発信強化 ■ 観光客の受入体制の充実 ■ 観光メニューやルートの充実 <p style="text-align: right;">など</p>
新たな交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山陰海岸ジオパークを活用した取組の推進 ■ 都市農村交流の推進 ■ 地域文化や歴史、スポーツを活用した交流の推進 <p style="text-align: right;">など</p>

基本目標 3 まちが見守る若者の未来

施策の基本的方向	具体的な施策
出会いから出産までの希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出会いの場の創出 ■ 新婚世帯の支援 ■ 出産サポート体制の充実
子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子育て環境の充実 ■ 子育て世帯への経済的支援 ■ 子育てと仕事の両立支援
子ども教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■ きめ細やかな教育の推進 ■ 地域力を生かした教育の充実 ■ 時代に応じた学力の向上 <p style="text-align: right;">など</p>

基本目標 4 まちでゆったり安心暮らし

施策の基本的方向	具体的な施策
快適な暮らしの確保	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民活動の支援 ■ 多様なサービスの充実 ■ 健康づくりの推進 <p style="text-align: right;">など</p>
安全・安心なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災・減災の推進 ■ 地域防犯体制の充実
既存ストックのマネジメント強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公共施設や社会インフラの最適化 ■ 空き家対策の推進
移住・定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 移住相談体制の充実 ■ 移住・定住のための環境整備
他地域との連携の促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣広域圏や市町村との連携強化

※総合戦略の進行管理については、基本目標に掲げる数値目標や各施策に掲げるKPI（重要業績評価指標：施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標）の達成状況等を考慮しながら、毎年度、PDCAサイクル（Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点のサイクルで継続的な改善を推進する手法）による点検・検証を行います。